

令和7年度 宮崎県立日向ひまわり支援学校 学校関係者評価書

4	十分満足できる	3	ほぼ満足できる	2	やや物足りない	1	改善を要する
---	---------	---	---------	---	---------	---	--------

【総評】

評価項目		学校の自己評価・コメント	自己評価	関係者評価	学校関係評価者・コメント
1 学校経営	① 教育方針や重点目標がわかりやすく具現化されている。	「ありのままに 自分らしく 伸び伸びと」を合い言葉に、子供たちの実態に応じた教育活動を計画・実施することにより、個別最適な学びを提供し、さらに協働的な学びにより子供たちの学びを深めることができ、教育目標の具現化に繋がる取組ができた。また、コロナ禍以前と同じような行事や会議等が実施可能となり、家庭や関係機関と連携を深め、効果的な指導に繋げることができた。	4	4	教育方針・教育目標がわかりやすく表現されており、授業の様子を見ても、生徒も先生もたいへん伸び伸びと学びを楽しんでいる様子が見られます。 重要ミッションであるキャリア教育と環境整備（防災）についても、現状の課題に対する取組として、できることから進めようとしていることが伝わってきます。
	② 学校、家庭、関係機関が連携して効果的な指導をしている。				
2 教育課程	① 児童生徒や保護者の教育的ニーズに応じた個別の指導計画を作成し、指導に活用している。	学級や学部で、一人一人の子供の実態を把握し、年3回行われる個別面談を利用して保護者と共に「個別の指導計画」を作成している。その計画を基に個に応じた教育活動を実践することにより、子供たちのできることが少しずつ増えてきている。 ICT機器に子供たちも慣れ、授業におけるICT機器活用も定着しつつある。また、授業だけでなく学校生活の中でも効果的な活用が見られ、さらに広がってきている。	4	4	個別の指導計画については詳しくわかりませんが、授業を見学した限り、個々に向き合っている様子が見られますので、日ごろから生徒に寄り添った指導をされているのだらうと思います。 ICT機器の活用は、通常学校よりもむしろ特別支援学校の方が、効果が大きく表れるのではないかという気もしますが、積極的な活用が見られ、効果が期待されます。 個性と可能性に寄り添った計画と活動の継続が子どもの達成感や満足感につながり保護者の評価A、Bの数値に表れていると思います。ICT機器活用の学習により将来の生活がより豊かになると感じます。
	② 学習効果を高めるための教材教具の工夫や改善をしている。				

3 教育 活動	①児童生徒は学校に来るのを楽しみにしている。	<p>個別の指導計画や年間指導計画に基づき、手立て等を工夫しながら個に応じた指導を心掛けた結果、②の項目が、保護者・職員のアンケートで高くなっている。</p> <p>進路だよりや学級懇談、支援会議等で将来に関する情報提供が適切になされ、昨年度同様、評価が高くなっている。また、キャリア・パスポートの活用により、子供の学びや成長について保護者と共通理解を図ることができ、キャリア教育の充実に繋がっている。</p>	3	3	<p>児童生徒の充実した様子が見られますので、日々の学校生活を楽しんでいるように思います。</p> <p>一方で、進路指導・進路相談については、保護者アンケートの結果から、もう少し個別相談や情報を欲している様子が見えます。</p> <p>生徒一人一人に、より丁寧に向き合う必要性があると感じている職員がいて素晴らしいが、充実した業務遂行については継続的な意見交換も重要だと思います。</p>
	②児童生徒の実態に即した課題に応じた指導を行っている。				
	③児童生徒の将来の生活のための情報を保護者や児童生徒に提供できた。				
	④個々の実態に応じた進路指導や進路相談が実施できた。				
4 教育 環境	①施設や設備(遊具等)は、安全に管理・維持されている。	<p>安全点検を毎月1回実施することにより安全管理を行うと共に、修理・改善も予算内で計画的に行うことができています。福祉避難所として開設に向けて日向市と連携を進め始め、学校安全連絡協議会において、様々な機関から助言をいただくこともできた。災害に対する避難訓練や不審者対応訓練等を計画的に行い、危機管理意識を高めることができた。避難訓練の後には、防災学習や日向市防災推進課による防災グッズ等の展示をし、内容等の工夫をすることができた。</p>	3	3	<p>日々の安全管理や細かい修繕等は職員の皆さんの工夫や予算の範囲内で進められていると思いますが、施設自体が老朽化している部分があり、福祉避難所としての位置付けを考えたときには大掛かりな修繕も必要になってくると思います。どのように予算を取るかについて、様々な要求の道筋を考えていきましょう。</p> <p>通信環境について、職員の課題指摘もあるように災害時は特に心配だと思います。</p>
	②災害や不審者対応等の緊急時の対応が整備されている。				

5 情報 提供	①保護者に学校や学部(学級)の情報を伝えることができています。	<p>子供たちの学校での様子は、月に1回発行している学校便り、日々の連絡帳や学級通信を活用して伝えることができた。地域や関係機関へは、ホームページやメディア(新聞、TV)等で情報発信を行ってきた。また、イオン日向店での作品展示やサンドーム日向での運動会を行い、広く学校の取組を地域に伝えることができた。今後も工夫をして情報発信を行い、社会に開かれた学校を目指したい。</p>	3	4	<p>学校便りや進路だよりが定期的に作成されており、こまめに情報発信されていることが伝わってきます。学校便り「ひまわり」ではスペシャルな活動が掲載されていて積極的で元気で楽しい学校と生徒の様子が伝わってきます。</p> <p>保護者とのコミュニケーションとしてはもちろん、地域とのコミュニケーションツールとしても機能すると思いますので、継続して発信していただければと思います。</p>
	②地域・関係機関に学校の取組や必要な情報を伝えることができています。				

6 研修 研究	①職員研修の内容は適切であり、専門性や資質の向上を図ることができた。	オンライン等に加え、直接会場での参加による県内外の大会や研修会に参加し、特別支援教育に関する専門性の向上を図ることができた。また、講師を招聘し、対面による研修を実施し、講師とやり取りをしながら研修を深め、有意義な研修会となった。	4	4	<p>研修の冊子を拝見しましたが、職員の皆さんが非常に勉強熱心で、日々よりよい学びを提供するために試行錯誤されている様子がうかがえます。</p> <p>専門家による指導も取り入れ、これまでの当たり前ではなく、常に新しい方法や教材を求めて研究されている姿勢は、企業も見習うべきものがあるのではないかと思います。</p>
	②課題研究の内容は適切で、今後の指導に役立てるための研究を行うことができた。	教育課題研究では、子供たちが「わかった」「できた」を実感できる授業づくりをテーマに、班に分かれて研究を進め、子供たちの学ぶ意欲を喚起し、生きる力を育む授業づくりに繋がる年間指導計画の見直しや教材の開発等を行い、研究を深めることができた。			
7 地域 関係 機関 との 連携	①学校間交流や居住地交流を実施して、障がいに対する理解・啓発を推進することができた。	学校間交流では、塩見小学校、日向中学校、日向工業高校との交流及び共同学習を計画的に実施し、啓発活動を行うことができた。また、居住地校交流も直接交流や間接交流を行い、回数を重ねることにより、地域に根ざした交流を深めることができた。さらに、相手校で障がい理解に関する事前学習をコーディネーターが行い、交流を深めることができ、共生社会に向けた取組を行うことができた。	4	4	<p>学校間交流や地域の各種団体との連携は、お話を聞くだけでも大変充実しているのではないかと思います。学校側からすると児童生徒のための地域連携ではありますが、地域にとっては共生社会に向けて確実に歩を進める取り組みとなっているはずで、むしろ地域側が積極的にこのような機会を生み出していないといけません。関わりたいけれども関わっていない企業も多くあると思いますので、あらゆるネットワークを使って接点を作っていければと思います。</p> <p>教材だけでなく医療機関や医師の情報、生活面でのスキルアップの工夫や便利グッズなど、将来の見通しや困り感の解決、危機回避や安全性の知識など、多面的な情報交換のメリットは大きいと実感しております。</p>
	②地域の小・中学校等を対象に特別支援教育に関する相談・情報提供を行うことができた。	特別支援教育のセンター校としては、チーフコーディネーターを中心に日向・東臼杵地区の学校に教育相談や研修支援等を実施し、センター的役割を務めることができた。			
	③福祉や医療関係機関等との連携を図ることができた。				

8 職 場 環 境	①日常的に教職員間のコミュニケーションに努めることができた。	職員が一堂に集まる機会が増え、職員間で日常的にコミュニケーションを十分に取ることができていた。	3	3	<p>学校の働き方改革は、一般企業の働き方改革よりもずいぶん難易度が高いように感じています。児童生徒や保護者と向き合う時間は、どこまでいっても取りすぎることではないものだと思います。とはいえ、職員の皆さんが不調をきたしてしまっは本末転倒ですので、良い塩梅を探る必要があります。「効率化する」「人を増やす」「やらないことを決める」のいずれかをしなければなりません。職員の皆さんで、思い切って「やらないこと」を話し合ってみるのもいいかもしれません。</p> <p>働き方改革を推進することと、個別対応を充実させることを両立させるのはかなり難しいのではないかと思います。何を優先するのか、どこまでやるのかを選択する必要が出てくるかもしれません。</p>
	②学校・学部・校務部等の運営において共通理解と情報の共有ができた。	職員会議を始め全ての会議を対面で実施することができ、会議の中で協議・検討を行い、共通理解を図ることができた。			
	③働き方改革をはじめ、充実した業務を遂行することができた。	<p>適材適所の職員配置により、忙しい中でも充実した業務を行うことができ、職員の「やりがい」につながった。特に、学部内はもちろん学部を超えての協力もあり、組織としての力を感じることもできた。</p> <p>行事や会議の精選等、学校経営ビジョンに基づいた組織としての対応や改善を模索している。</p>			